

農業政策で主張を堅持 鄧子恢 (トン・ツーホイ 1896-1972) について

福 光 寛

目 次

はじめに

- 出生から日本留学まで (1896-1918)
- 帰国から共産党入党まで (1918-1926)
- 五一暴動 (1927) そして後田暴動 (1928)
- 土地改革をめぐる党中央の方針の修正 (1928)
- 閩西暴動 (1928) の成功と政治決議案 (1929)
- 閩西ソビエト政府主席就任と降格 (1930)
- 中央ソビエト政府財政部長就任 (1932) と降格 (1934)
- 抗日統一戦線の提起 (1935/ 1936)
- 五四指示 (1946) 再び土地改革へ
- 中華人民共和国初期—農業合作化推進を任される (1953)
- 集団化 (合作化) のスピードをめぐる論争 (1955年6-7月)
- 足の小さな女 (小脚女人) という批判 (1955年7-8月)
- 亀裂を広げた二人の会談 (1955年8月3日)
- 注目されてよい四大自由論の展開 (1948/ 1953)
- 成功とはいえない合作化の達成 (1956)
- 責任田をめぐる説得と辞職の申し出 (1962)
- 國務院副總理解職から亡くなるまで (1965-1972)